

〔国 語〕

○ 実 施 時 間 【8：30～9：20】（50分）

○ 次の注意をよく読んでおくこと。

- (1) 「始め」の合図があるまで問題用紙を開かないこと。
- (2) 問題は 一 ～ 三、16 ページまであります。
- (3) 答えはすべて解答用紙の解答らんにはっきりと、ていねいに書きなさい。
- (4) 答えを直すときは、きれいに消してから書きなさい。
- (5) 内容に関する質問は受け付けません。
- (6) 気分が悪くなったり、トイレに行きたくなったりしたら、手をあげて^{かんとく}監督の先生に合図しなさい。
- (7) 「終わり」の合図があったら、直ちに筆記用具を置き、解答用紙が回収されるまで待っていなさい。
- (8) 解答上の注意
 - ・ 字数指定のあるものは、句読点〔。、〕および「 」や（ ）なども一字と数えること。なお、一マスには一字しか入れられません。
 - ・ 文末表現は、「こと」、「から」など、問いにふさわしい形にし、文の終わりには句点〔。〕をつけなさい。

受験 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

一 次の——のカタカナを漢字に改めなさい。

- ① 授業で知った作家のチヨサクを図書館で探す。
- ② その件については彼もシヨウチしていたはずだ。
- ③ 地図によってシユクシヤクは異なる。
- ④ ケイサツ官になるのが子どものころからの夢だ。
- ⑤ ケーキをキントウに切り分ける。
- ⑥ 新しい家をセツケイする。
- ⑦ 布を青くソめる。
- ⑧ その手順はシヨウリヤクできる。
- ⑨ リンジのバスが出る。
- ⑩ ネンガのあいさつをする。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

課題があるところには、必ず議論が起きます。深刻な課題ほど議論は二分化され、徹底して課題に寄り添うのか、A突き放して反対するのか、関わりが「賛成／反対」で分断されていくように感じます。政治的な党派性を持ち込まれ、議論は進まず、分断がさらに進む。そんな時代だからこそ、ぼくは、当事者性や専門性に左右されない「ゆるい関わり」が必要なのではないかと考えるようになってきました。当事者性の濃さや専門性の高さに囚われることなく、本書で何度も示してきたような、個人の興味や関心を通じて課題と関わる回路が必要だと。ぼくは、そんな関わりを「共事／共事者」と呼んでいます。自分は当事者とは言えないけれど、事を共にしてはいる。関心はある、気になって見ている。けど具体的にはまだ行動に移せていない。そんな人たちをイメージしています。

X

問題が深刻なほど、課題が大きいほど、活動は、その地域の課題を解決する「ために」行われるようになります。B、目的先行型の関わり、前の章で紹介した「やるコミュニティ化」していくわけです。課題が差し迫っているのだから仕方がないのかもしれない。でも、それだけだとなんだか*が詰まる感じがします。景色がいいとか、食べ物が美味いとか、山が好きとか友達に住んでるとか、そういう個人の思いから生まれる関わりがあつていいはずだし、ぼくはいつもそういう関わりを作ってきました。

地域は、結果的に元気になればいい。ぼくは行政マンでもなければ大学の研究者でもないし、ジャーナリストでもない。まずは自分や家族、友人の人生を豊かにすることが大事であつて、そのついでに、結果として、地域も豊かになればいい。明確な目的を掲げることなく、まずは自分の楽しさを優先する回路を守りたい。震災でも、それを強く思いました。当事者として「やる」コミュニティだけでなく、共事者として「いる」コミュニティ、共事的な関わりがもっと増えていくといいなと思っています。

新しい場人が集うようになれば、きつとあとづけで公共性が生まれていくはず。共事者だった人が踏み込んで当事者になる

ことだつてあるでしょう。ぼくは、その地域をたまたま好きになつてしまつた人の極めて個人的な取り組みが、ひよんなことから社会に開かれ、課題と接続されてしまう、そんなエラー^①みたいな関わりに希望を感じます。

C

、ぼくがそうだったからです。

K. もみんなそう。地域活性のために、風評払拭^{ふうへつはらひ}のために、復興のためにやってきたわけではありません。みんな自分の生活を豊かにするためにやっているだけです。ぼくは、社会課題の当事者ではないし、震災だつて家族を失つたわけでも家を失つたわけでもありません。たまたま福島県に住んでいただけです。ジャーナリストでもないし、大学の先生でもない。それでも、震災や原発事故を忘れてはいけなと思つているし、地域の課題にも関心があります。そういう自身の「中途半端な関わり」をできるだけポジティブに捉えたくて、^②ぼくは「共事者」という言葉を発明しました。

Y

地域づくりに必要な外部の人たちを「ヨソモノ・ワカモノ・バカモノ」と言つたりします。この三つを言い換えると、「外部・未来・ふまじめ」と言い換えることができます。確かに、被災^{ひびさい}した土地をどうするかを決めるのはそこに暮らす人たちですが、その決断は、「いまこの私」と「外部・未来・ふまじめ」を何度も往復した末に下されるべきだと思ひます。なぜなら、ぼくたちの地域は、「いまこの私」だけのものではないからです。地域とは、そこで暮らしてきたご先祖たち、未来に住むかもしれない人たち、偶然に移り住むかもしれない人たちや、未来の子どもたち、本当は関心を持っていたのに言葉を発するのをためらつていた人たち、そして、膨大な数の死者たち。そのような人たちのものでもあるからです。決めるのは当事者かもしれないけれど、^③外の目線も忘れてはいけない。ぼくはそういう思いを持つて活動を続けてきました。

ただ、未来ばかり、外のことばかり考えていれば良いというわけでもありません。震災後は、特に「未来へのメッセージ」ばかりが目指されてきたようにも思ひます。けれど、すでに「いま」が、過去の人たちにとって未来であるはずです。ぼくたちは、過去に生きてきた人たちが描いた未来をつくることはできたのでしょうか。過去の人たちの「未来はこうなつてほしいな」という思いを現でできたのでしょうか。というか、過去の人たちがどのように生き、どのような言葉を残したのかを知ろうとしてきたのでしょうか。未来を考えることはとても大事ですが、ぼくたちはあまりにも「過去」や「歴史」を軽視してはこなかったか、とも思ひます。「外部・未来・ふまじめ」だけでなく、過去に生きてきた人たち、つまり「死者」の存在を忘れることはできません。

震災後、ぼくは歴史に関心を持つようになりました。過去の災害や震災の記録、昔の人たちの暮らしぶりなども考慮しなければ、ぼくたちがいま何をすべきかも見えてこない気がするからです。その地域の文化は歴史が作り出したものです。なぜそこにそんな食べ物があり、なぜそのような風習があるのか。すべては歴史を読み解かないとわからない。気候や風土、その風土が生み出す食、地形や景観の美しさ、土地に息づく信仰^{しんじよう}や祭。市民性・県民性もあるでしょう。それらはみな、何百年という（地形でいえば何億年の）歴史が培^{つちか}ってきたものであり、それらを紐解き、価値を最大化しようとするれば、^④あるいは課題を解決しようとするれば、地域をフィールドにする人たちは歴史を軽視できません。

歴史は面白い。歴史は過去のもので、直接は触れることができません。つまり、歴史を紐解こうという人はすべてが「ヨソモノ」なんです。常にヨソモノ目線が働き、へえ、そうだったのか、そんな理由があつたのかと面白がる目線が生まれます。そして、そういう歴史との出会いを通じて、過去に生きてきた人たち、ぼくたちの先祖の思いを知ることにつながる。D、地域づくりとは、先祖の思い、死者の思いを知ることであり、彼らと対話することでもあるのだと思ひます。

（小松理度『地方を生きる』筑摩書房より）

注1 党派性……ここでは、利害関係をともにする人々の考え方。

注2 本書で何度も示してきたような……筆者は本文より前の部分で何回も「地域の魅力も課題も両方面がある」ことの重要性を説明している。

注3 前の章で紹介した「やるコミュニティ化」……筆者は本文より一つ前の章で、一つの目的を達成するために色々な人が集まる場のことを「やるコミュニティ」と呼んでいる。

注4 「うみラボ」……筆者が中心となって実施した、福島第一原子力発電所沖の魚の様子を調べる企画。

注5 「さかなのぼ」……筆者が中心となって実施した、福島県いわき市小名浜の住人が地元の魚や酒を味わうことで地域の魅力を再発見するための企画。

注6 UDOK……小名浜の商店街にあった空き店舗をフリースペースとして活用し、音楽や芸術、ゲームなどの様々なイベントを実施した企画。

注7 払拭……すっかり取り除くこと。

問1 A Dに入る言葉を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。なお、同じ記号を二回用いてもかまいません。

ア しかし イ なぜなら ウ もし エ つまり オ および

カ あるいは キ よもや ク ところで

問2 X・Yには小見出しが入ります。入る言葉として最もふさわしいものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア 「当事者」が最優先 イ 多くの地域をつなげる ウ 公共性はあとづけでよい

エ 課題は解決しなくてよい オ とにかく未来のことを考える カ 「いま」は過去の未来

問3 *に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア のど イ 声 ウ 息 エ 鼻 オ 胸

問4 ——①の本文中における意味として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 混乱していること イ 大変なこと ウ 思いがけないこと エ 下手なこと オ すばらしいこと

問5 ——②とありますが、筆者は「共事者」をどのような人だと想定していますか。五十五字以内で答えなさい。

問6 ——③とありますが、それはなぜですか。理由として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 地域外から多くの人を呼び込み、地域の抱える課題を解決し、復興を進めるためにも、そこに住む人たちにとって魅力的な地域作りをする必要があるから。

イ 地域は今住んでいる人だけのものではなくて、地域外の人達や、過去にその土地に関わったり、未来で関わったりするかもしれない人たちのものでもあるから。

ウ 伝統や文化を重んじる地域では、課題解決やこれからの地域づくりをしていくにあたって、その地域で生きていた先祖たちの教えが何よりも大事だから。

エ 地域づくりを通して復興や活性化を進めていく中で、将来的にその地域をどうするかという未来に向けたイメージを明確にし、しておく計画が進みやすいから。

オ 地域づくりには、今その地域で暮らしている人が、「ヨソモノ・ワカモノ・バカモノ」といった「ふまじめ」な人たちの生活をよくすることを考える必要があるから。

問7 ——④について、ここでの「フィールド」とは、「活動する場所」という意味ですが、「地域をフィールドにする人たち」が地域の「課題を解決しよう」とするとき「歴史を軽視」できないのはなぜだと筆者は考えていますか。六十字以内で答えなさい。

問8 次のア～オのうち、本文の内容にあてはまるものをすべて選び、記号で答えなさい。

- ア 議論する課題が深刻である時ほど、「当事者」の意見や思いを優先することで話し合いはまとまりやすくなる。
- イ ある地域の景色や食べ物だけにしか興味がない人たちが多く集まると、その地域の課題解決は進まなくなってしまう。
- ウ 筆者は、まず人が自分の人生を豊かにしようとして、その結果として地域が活性化するようなことになればよいと考えている。
- エ 筆者は「うみラボ」や「さかなのば」などの企画を地域活性や風評払拭、復興のために始めたわけではない。
- オ 震災後の復興活動では、「未来へのメッセージ」はあまり考えられてこず、現状の回復だけが重視されてきた。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

友達だった五人グループが分裂し、ひとりぼっちになった小学五年生の「わたし」（風香）は、同じクラスの瑠雨ちゃんが自分の話し相手になってくれるのではないかと考えていた。ある日、国語の授業で、「美しい」という形容詞を使った言葉を書き出す課題が出た。

わたしたちが書いた言葉は、先生がぜんぶパソコンにうちこんでプリントアウトし、つぎの国語の時間に配ってくれる。ひとりひとりがまいた種を、クラスの全員でわけあうってこと。

「わ、すごい、三十以上も書けるんじゃない？」

「なにこれ。美しいエリカ、美しいミナミ、美しいハルカ……女の子の名前ばかりじゃない！」

村上先生がみんなに声をかけながら紙を集めているあいだ、わたしはななめ後ろの席にいる瑠雨ちゃんをそっと見た。

瑠雨ちゃんはどうな「美しいもの」を書いたのか。きゆうにむずむず気になって、横目で紙の文字をチラ見し、あっと思った。そこには、わたしが思いもしなかったものたちがつらなっていた。

美しい音楽

美しい

*

美しい

*

美しい

*

美しい

*

と、そのまま読んだところで、先生の手がその紙を回収した。

見るものをなくしたわたしは、しばらくつくつくのシミをながめてから、そっと視線をもちあげた。

目が合うと、瑠雨ちゃんはいけないひみつを見られたような、まつげのゆらしかたをした。

音。

瑠雨ちゃんの紙にあったのは、ぜんぶが美しい「音」だった。

見るものじゃなくて、きくもの。

耳で感じる美しさ。

そんな発想、わたしにはこれっぽっちもなかった。たぶん、瑠雨ちゃん以外、クラスのだれも音のことなんて思いつかなかつたらう。ってことは……。

瑠雨ちゃんはとくべつな耳をもってるってこと？

意外な発見をしたその日から、わたしが瑠雨ちゃんを見る目は変わった。

瑠雨ちゃんはそのただのしゃべらない子じゃないのかもしれない。瑠雨ちゃんの口は、この世のなにもきょうみがなさそうに閉じたまんまだけど、そのぶん、瑠雨ちゃんの耳はいつも全開で世界を感じているのかもしれない。年中無休でいるんな音をすいこんでいるのかもしれない。わたしたちにはきこえないものも、瑠雨ちゃんの耳にはきこえているのかもしれない。

瑠雨ちゃんの一挙一動（ときどき、動きを止めて、じつとなかを見つめていたりする）に目をこらすほどに、わたしの好奇心は

A ふくらんで、とうとう、このすごいヒミツをだまっていられず、ターちゃんにだけうちあげた。

「ね、ターちゃん。しゃべらない瑠雨ちゃんは、もしかしたら、きくことの達人なのかも」

すると、ターちゃんはまたさらにすごいことを教えてくれた。

「べつだん、たまげた話じゃあないさ。目の不自由な人が、とくべつな聴力ちやうりょくをもってるってのは、ざらにあるこった。瑠雨ちゃんは、しゃべるのがにがてなぶん、人とはちがう耳をもってるのかもしれないねえな」

「えーっ」

わたしはたまげた。そして、シビれた。

「人とはちがう耳って、どんな？ もしかして、天才ってこと？ 瑠雨ちゃんはきくこと天才なの？」

わたしが B せまると、ターちゃんは「さあな」と鼻の頭をかいた。

「おいらかにきくより、瑠雨ちゃんにきいてみな」

「だって、瑠雨ちゃん、しゃべってくんないし」

「真の友ってのは、しゃべらなくたって通じあえるもんだ。 C っつてやつよ」

「真の友っていうか、まだわたしたち、ともだちなのかもわかんないし。少なくとも、瑠雨ちゃんわたしのこと、ともだちと思っけないだろうな」

「じゃ、まずは仲よくなるこった」

ずいぶんザツなアドバイスだけど、ターちゃんの言うことは一理あった。

瑠雨ちゃんのことをもっと知りたい。クラスのだれも知らないヒミツにせまりたい。そのためには、まずはもっと瑠雨ちゃんに近づくことだ。今の距離だと、瑠雨ちゃんの耳にきこえているものが、わたしにはきこえない。

そこで、わたしは作戦をねった。

「瑠雨ちゃん」

思いきって、さそった。

「今日、うちに遊びにこない？」

五時限目のあと、音楽室から教室へ移動しているときだった。

瑠雨ちゃんにはしゃべらないけど、うたう。授業中にみんな「まっかな秋」を合唱していたとき、瑠雨ちゃんの口がうつすら動いているのを見たわたしは、その新しい発見にこうふんして、いますぐ作戦を執行したくなってしまったのだった。

早まったかな、と思ったときには、おそかった。

ろうかのとちゅうで立ちどまった瑠雨ちゃんは、ぼかんとした目でわたしをながめ、せいだいにまつげをふるわせた。

「ええつと……あ、あのね、じつは、瑠雨ちゃんにお願いがあつて」

いまさらあとへは引けない。わたしは気合を入れて続けた。

「できれば、瑠雨ちゃんに、ターちゃん……うちのおじいちゃんの謡曲（注）ちやうまよくをきいてもらいたいの
しーん。

瑠雨ちゃんのまつげがはためく音がきこえてきそうな静けさ。

「話せば長くなるんだけどね、うちのおじいちゃん、町内会の謡曲愛好会に入つて、毎日、うちでも大声で練習してるの。それが
とんでもなくへたくそで、うるさくて、わたしもママもほんつと参ってるの。公害レベルでひどいの。なのに、本人は謡曲の才能が
あるつてかんちがいしてて、やればのびるつて言いはるの。ないないつてわたしとママがいくら言つても、おまえらにながわかる
んだつて、ぜんぜんきいてくれないの。で、よかつたら、瑠雨ちゃんの天才の……じゃなくて、その、客観的な耳でおじいちゃんの
謡曲をきいてもらつて、感想を教えてもらえたらつて……」

ターちゃんの謡曲。マジでこまっているせいか、しゃべりだしたら止まらなくなって、わたしはひと息にまくしたてた。

「瑠雨ちゃんの見解だったら、ターちゃんもすなおにきいて、目をさましてくれるかもしれないし」

瑠雨ちゃんをうちにまねいたら、一気に距離がちぢまつて、ぐんと仲よくなれるかもしれない。ついでに、瑠雨ちゃんがターちゃん
の謡曲を「才能なし」つて判定してくれて、ターちゃんが自信をなくしてうたわなくなったたら、D
そんなよくばりな作戦だったのだけど、瑠雨ちゃんのまばたきはいつころにおさまるところをしらない。

その正直なこまり顔をながめているうちに、わたしの頭はどんどん冷えていった。

やつぱり、むりか。それもそうか。しゃべったこともない（いつも相手から一方的にしゃべりかけてくるだけの）クラスメイトか
ら、きゆうに遊びにこいとか、おじいちゃんの謡曲をきけとか言われたら、瑠雨ちゃんじゃなくてもだまりこんじゃうか。

「わかった。いいよ、いいよ。ごめんね」

人にしてこくしないこと。最近それを心がけているわたしは、いさぎよく引きながることにした。

「ダメもとで言つてみたんだけど、やつぱり、へんだよね。わすれて、おじいちゃんの謡曲のことは」

おろかな作戦を立ててしまった。そう思つたらむしろにはずかしくなつて、耳までじわつと熱くなつた。

D 赤い顔をふせ、瑠雨ちゃんから逃げるように足をふみだす。

そのわたしをなにかが引きとめた。

せなかのあたりに、へんな感触（かんしよく）。ふりむくと、E 瑠雨ちゃんの細っこい指が、わたしのスウェットのわきばらのあたりをつまんで
いた。

「瑠雨ちゃん……？」

瑠雨ちゃんの顔をのぞきこみ、あれつと思つた。

長いまつげが動きを止めている。あいかわらずこまつた顔をしているけど、その目はめずらしくわたしをまつすぐに見つめて、な
にかをうつつたえかけている。

十秒くらい目と目を見合わせてから、わたしは「ええつ」とのけぞつた。

「まさか、謡曲きいてくれるの!?!」

瑠雨ちゃんがこくつとうなずいた。

（森絵都「風と雨」『あしたのことば』小峰書店より）

注1 ターちゃん……「わたし」（風香）の祖父。

注2 謡曲……能のセリフに曲をつけたもの。

問1 ~~~A〜Eのうち、「わたし」が「瑠雨ちゃん」のことを知りたがっている気持ちが表れているものはどれですか。次の中からすべて選び、記号で答えなさい。

- A ひとりひとりがまいた種を、クラスの全員でわけあう
- B わたしはななめ後ろの席にいる瑠雨ちゃんをそっと見た
- C クラスのだれも知らないヒミツにせまりたい
- D 赤い顔をふせ、瑠雨ちゃんから逃げるように足をふみだす
- E 瑠雨ちゃんの細っこい指が、わたしのスウェットのわきばらのあたりをつまんでいた

問2 * に入る言葉としてふさわしく、ないものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 雨の音 イ せせらぎ ウ あさつゆ エ シール オ 歌 カ メロディ

問3 A・Bに入る言葉の組み合わせとして正しいものを次のア〜カの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア A がやがや B しぶしぶ
- イ A らんらん B つやつや
- ウ A らんらん B ぐいぐい
- エ A むくむく B しぶしぶ
- オ A むくむく B ぐいぐい
- カ A がやがや B つやつや

問4 ①とありますが、「わたし」が考える「ヒミツ」としてふさわしいものを次の中からすべて選び、記号で答えなさい。

- ア 瑠雨ちゃんの耳はいつも全開で世界を感じているのかもしれないということ。
- イ 瑠雨ちゃんの耳はこの世界のどんな音も聞こえないのかもしれないということ。
- ウ 瑠雨ちゃんの耳は美しい音以外は受け付けないのかもしれないということ。
- エ 瑠雨ちゃんの耳は声に出していないものだけ聞こえているのかもしれないということ。
- オ 瑠雨ちゃんの耳は周りの人が聞こえないものも聞こえているのかもしれないということ。
- カ 瑠雨ちゃんの耳は常にいろいろな音を受けとめているのかもしれないということ。

問5 C・Dに入る四字熟語を次の からそれぞれ選び、カタカナを漢字に直して答えなさい。

- イキトウゴウ イチジツセンシュウ イシンデンシン イツサイガツサイ
- イクドウオン イツチョウウイツセキ イチイセンシン イツセキニチョウ

問6 この文章の登場人物に関する説明として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 風香は、好奇心が旺盛で、自分が興味を持った人に接近する際には相手にどう思われようと引きさがることはしない。
- イ 風香は、瑠雨のまっげの動きやまばたきといった顔の表情から、言葉にはならない彼女の感情や心情を感じとっている。
- ウ 瑠雨は、自分のことを都合よく利用しようとしている風香に対して、しゃべらないことで距離を置こうとしている。
- エ ターちゃんは、いつもひとりぼっちでいる孫を心配し、孫に友達ができるよう画策するが、思い通りにことは進まなかった。
- オ ターちゃんは、ぞんざいな言葉遣いや参考にならない助言をくり返すため、孫である風香から白い目で見られている。

問7 次の会話文は、②・③について獨太君と協平君が話し合っている場面です。これを読んだ後の(1)と(2)に答えなさい。

獨太 瑠雨ちゃんが風香ちゃんの家遊びにきてくれそうだね。

協平 そうだね。風香ちゃんの「作戦」が成功するか、ここから風香ちゃんの腕の見せ所だよ。

獨太 続きが気になるね。そういえば、「よくばりな作戦」って書いてあったけど、何が「よくばり」なのか、いまいちわからなかったな。

協平 それは、という作戦と、という作戦を一度に実行してしまおうという気持ちがあるからさ。

獨太 なるほどね。だけどその後、風香は「よくばりな作戦」のことを「やっぱり、へんだよね」といつているよね。どうして「へん」だと考えたのかなあ。

協平 それはきつと瑠雨ちゃんからすると、からだよ。

獨太 協平すごいな。あつ、もうすぐ授業が始まるよ。続きは放課後、図書館で読もう。

(1) に入る文としてふさわしいものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。なお、解答の順序は問いません。

ア 瑠雨ちゃんを家に招き、「まつかな秋」を一緒に歌うことで、みんなが知らない瑠雨ちゃんの歌声を聞き出そう

イ 瑠雨ちゃんにターちゃんの謡曲を聞いてもらい、ターちゃんの才能が謡曲愛好会に認められるか客観的に判断してもらおう

ウ ターちゃんの謡曲を聞いてもらうためという口実で瑠雨ちゃんを家に招き入れ、瑠雨ちゃんと仲良くなろう

エ 瑠雨ちゃんにターちゃんの謡曲を聞かせて否定的な感想を引き出すことで、迷惑なターちゃんの謡曲練習をやめさせよう

オ 音楽の才能がありそうな瑠雨ちゃんに、わたしとママでは理解できないターちゃんの謡曲の魅力を教えてもらおう

カ 瑠雨ちゃんがわたしを友達だと思ってくれているかどうか、家に遊びにくるよう誘った時の反応で確かめよう

(2) に入る文を五十字以内で答えなさい。

このページに設問はありません